

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（3月）

大阪府内の3月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策について、お知らせします。

春は強風の日が多いので、風のある時間帯は散布を避けるなど薬剤散布の際はドリフトに注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。
- 新たな農薬の評価手法（短期暴露評価）が導入されることに伴い、登録変更（変更申請中のものを含む）によって、使用が制限される農薬がありますので注意してください。
詳しくは、販売店で提供されるチラシ等や下記ホームページを確認してください。

「病害虫防除グループホームページ 防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

「短期暴露評価により変更される農薬の使用方法の周知等について」

http://www.jppn.ne.jp/osaka/H27nd/ARfDtuuti/ARfDH27_top.html

目次

1	水稻	P.1
2	ぶどう	P.1~2
3	温州みかん	P.2
4	もも	P.2
5	いちじく	P.2
6	野菜（たまねぎ、トマト、なす）	P.3~4

病害虫発生・防除情報メールサービス（3月）

1 水稻

《防除時の注意点》

- いもち病やもみ枯細菌病などの防除のため、種子消毒を実施しましょう！

【種子消毒】

薬剤を使用する場合の注意

- ◆ テクリードCフロアブル、スポルタックスターナSE等で消毒する。
- ◆ 消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。

温湯消毒の場合の注意

- ◆ 乾燥した種子または塩水選後1時間以内の種子を使用する。
- ◆ 60度の湯に10分間浸漬する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。
- ◆ 処理した種子は、できるだけ速やかに浸種し催芽を行うか、病原菌が付着しない条件下で風乾後、冷暗所に保管する。

【育苗準備】

- ◆ 育苗箱などの資材は使用前にケミクロンG、イチバン等で消毒する。

【イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）】



- ◆ 育苗期間中の苗が高温高湿になりすぎないように、温度管理と灌水を適正に行う。

2 ぶどう

《防除時の注意点》

- ハウス内の湿度が高くなりすぎないように、注意しましょう！

【灰色かび病】



- ◆ 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 開花直前または落花直後にゲッター水和剤（45日前まで）等を散布する。

【ハダニ類】



- ◆ 加温機の近く、ダクトの先端部など高温になりやすいところから発生する。
- ◆ 発生を確認した場合は、マイトコーネフロアブル（21日前まで）等を散布する。

3 温州みかん

【間伐・整枝・せん定】

- ◆ 密植園では、日照・通風条件が悪く、病害虫の発生が増加するため、適切な樹間距離になるように間伐等を実施する。
- ◆ 樹勢が著しく低下した樹は病害虫の発生源にもなりやすいので、伐採する。
- ◆ 枯死した枝も病害虫の発生源になりやすいので、切除する。
- ◆ 整枝・せん定の切り口にトップジンMペースト（剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後）を塗布する。

4 もも

《防除時の注意点》

■ 昨年、せん孔細菌病が多発しました。発生の多い園地では防除を徹底しましょう！

【せん孔細菌病】



- ◆ 春型枝病斑は見つけ次第、せん除する。
- ◆ 開花期直前にICボルドー412（一）を散布する。（薬害を生じるおそれがあるため、開花後から8月末までは使用しないこと。）

5 いちじく

【ハダニ類、カイガラムシ類】



- ◆ 3月中旬（発芽前）に石灰硫黄合剤（発芽前）を散布する。

6 野菜（たまねぎ、トマト、なす）

＜3月前半の病害虫発生状況＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
たまねぎ				べと病		
				白色疫病		
				ネギアザミウマ		
トマト				葉かび病・すすかび病		
				コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病(TYLCV)		
なす				アザミウマ類		
				すすかび病・灰色かび病		

＜防除時の注意点＞

■ 昨年の春期に多発生しました。早めの防除が大切です。発生前の予防散布を必ず行いましょう。

＜たまねぎ＞

【べと病】



べと病

(上) 越年罹病株
(下) 2次感染株

- ◆ 2月下旬の巡回調査で、越年罹病株を確認している。（病害虫防除情報 3月2日発表）
越年罹病株は2次病斑の感染源となる。
- ◆ 予防散布として、ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤（3日前まで）、ランマンフロアブル（7日前まで）を散布する。
- ◆ 発生（2次病斑）を認めたら、リドミルゴールドMZ（7日前まで）、プロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）、ザンプロDMフロアブル（7日前まで）を散布する。

注）（べと病・白色疫病対象）リドミルゴールドMZ（3回）と（べと病・白色疫病対象）ジマンダイセン水和剤（5回）と（べと病のみ対象）ペンコゼブ水和剤（5回）は、同一成分マンゼブを含むため、総使用回数は合計5回以内。

【白色疫病】



白色疫病

- ◆ 発生が見込まれる時期に、予防散布として、ジマンダイセン水和剤（3日前まで）、ランマンフロアブル（7日前まで）を散布する。
 - ◆ 発生を認めたら、リドミルゴールドMZ（7日前まで）かプロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）を散布する。
- 注）（べと病・白色疫病対象）リドミルゴールドMZ（3回）と（べと病・白色疫病対象）ジマンダイセン水和剤（5回）と（べと病のみ対象）ペンコゼブ水和剤（5回）は、同一成分マンゼブを含むため、総使用回数は合計5回以内。

【ネギアザミウマ】



ネギアザミウマ

(上) ネギアザミウマ ※

(下) タマネギの被害 ※

◆成虫は淡褐色または淡黄色（約 1.5mm）、幼虫は淡黄色（約 1mm）。被害部は小斑点となる。

◆発生を認めたら、ディアナ SC（アザミウマ類）（前日まで）、プレオフロアブル（3日前まで）を散布する。

■発生は平年並ですが、今後の発生に注意しましょう。

<トマト>

【葉かび病・すすかび病】



葉かび病

◆発生前に、ダコニール1000（前日まで）、ベルコートフロアブル（前日まで）を散布し、発生を認めたらトリフミン水和剤（前日まで）、アフエットフロアブル（前日まで）を散布する。

注) トマトとミニトマトで登録が異なる場合があるので、登録内容をよく確認すること。

■施設で栽培が始まりました。初期防除（予防散布）を徹底しましょう。

<なす>

【アザミウマ類】



ミナミキイロアザミウマ※

◆発生が見られたら、プレオフロアブル（ミナミキイロアザミウマ）（前日まで）、モベントフロアブル（前日まで）、ディアナSC（前日まで）を散布する。

【すすかび病・灰色かび病】



すすかび病

◆保温のためハウスを締め切ることが多くなるが、適度に換気を行い、湿度を下げるなど注意する。

◆発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を、発生を認めたら、トリフミン乳剤（すすかび病）（前日まで）、カンタスドライフロアブル（すすかび病、灰色かび病）（前日まで）を散布する。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>) を参照してください。

農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

次回の情報は、4月15日頃にお知らせします。